

今夜7じより
市民館3階
(西成区ウラ・解放会館内) 毎週金曜日

みんなでつくろう
みんなの会館
三人よれば何とかの知恵

夜間学校

西成区教之祭屋2-5-23
金ヶ崎解放会館内 金日労働争議会
632-4273
金ヶ崎夜間学校

金ヶ崎生活センターを創ろう！

対市交渉前の打ち合わせ会

今日の夜間学校は、新小、中学校の跡地を、金ヶ崎の大人と子供のために解放し、金ヶ崎生活センターをつくれ、この要求実現のための会合に合流します。会場はいつもと同じ市民館です。

会合に集まるのは、市教組、南大阪支部、解同、矢田支部、金ヶ崎キリスト教協友会、金日労働争議会、金ヶ崎差別と闘う連絡会、地域のお母さん達などです。

要求実現のための会合に合流します。会場はいつもと同じ市民館です。

会合に集まるのは、市教組、南大阪支部、解同、矢田支部、金ヶ崎キリスト教協友会、金日労働争議会、金ヶ崎差別と闘う連絡会、地域のお母さん達などです。

人達などです。

要求実現のための署名は

全国から一万余人集まっています。いよいよ六月十日

6/13 京都駅・下京福祉事務所糾弾

京都へ追及に行こう！

六月十三日、京都において、青カンを余儀なくされている仲間を追い払つたり、逮捕したりしている元凶の京都駅と無為無策に終始している下京福祉事務所を糾弾する会合があります。

て、青カンを余儀なくされている仲間を追い払つたり、逮捕したりしている元凶の京都駅と無為無策に終始している下京福祉事務所を糾弾する会合があります。

て、青カンを余儀なくされている仲間を追い払つたり、逮捕したりしている元凶の京都駅と無為無策に終始している下京福祉事務所を糾弾する会合があります。

て、青カンを余儀なくされている仲間を追い払つたり、逮捕したりしている元凶の京都駅と無為無策に終始している下京福祉事務所を糾弾する会合があります。

て、青カンを余儀なくされている仲間を追い払つたり、逮捕したりしている元凶の京都駅と無為無策に終始している下京福祉事務所を糾弾する会合があります。

て、青カンを余儀なくされている仲間を追い払つたり、逮捕したりしている元凶の京都駅と無為無策に終始している下京福祉事務所を糾弾する会合があります。

せめよう！闘いなみ (朝手帳を出すときの列への...)

捨てよう！ゴミ箱へ (夜間学校などのビラを読みあかした)

在日韓国朝鮮人の指紋押なつ拒否断固支持！

よのうり寸評

二日(予定)には大阪市との第一回目の交渉がもたれようとしています。

交渉の前に、再々度、方向と意志の確認をおこないます。自分達の署名のゆくえがどうなるのか、見えて下さい。

のゆくえがどうなるのか、見えて下さい。

のゆくえがどうなるのか、見えて下さい。

あいにく目付きと云った... このほか、内々の者には裏返して出さない座布団の勤め方から二首から上は打たない「ケンカ」の作法まで「江戸しぐさ」は、二首以上ある。これを知らない者は「ムクドリ」と言われて軽べつされた。ムクドリは、地方から群れて来て、騒ぎたて、食物がなくなるという。食糧がなくなるという。消えた江戸しぐさの効用を見直そうと、十数年を費やして、江戸のしぐさを研究する会「江戸のしぐさ研究会」の三三三氏等は、こう言っている。「江戸しぐさが自然身につけば、車内暴力もいじめも起るはずはないと思えますよ」。

金の中にいろいろ入る

ぐさがある。例えば、手帳を出す列を横切るとき、ちよつと片手を前に出す。のようなもの。

ちよつと片手を前に出す。のようなもの。

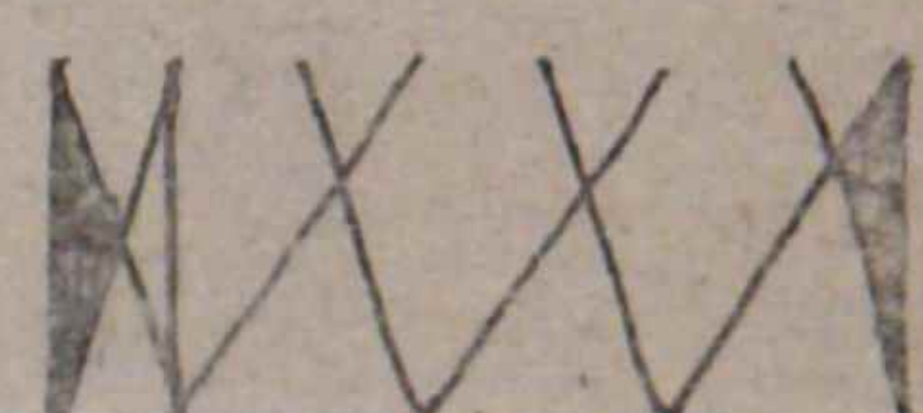
ちよつと片手を前に出す。のようなもの。

ちよつと片手を前に出す。のようなもの。

何とかせなどうにもならへん!

「前回(ぜんかい)は五月(ごがつ)の最終日(さいしゅうび)三日(にち)でしたが、その日の「朝日」の「声」には南(みなみ)米(まい)の美容師(びようし)の投書(とうしょ)で日産労働者(にっさんろうどうしゃ)で汚れた体(からだ)の人(ひと)が目(め)につくようになつた、シャワーの設備(せつび)を福祉(ふくし)で作(つく)つたら、という内容(ないよう)のものが載(の)せられていました。最近(さいきん)は大(だい)体(たい)人(じん)が堪(た)えたでし、「浮浪者(うろうどう)と言(い)ふ」と、日産労働者(にっさんろうどうしゃ)者(しや)とそこちんと書(か)いてあるし。」「世間(よこしま)の人(ひと)が色々(いろいろ)氣(き)を付けてく、小(こ)てふわけやなし。」「先週(せんしゅう)はセンターのシヤワー室(しやわあしむ)でも三日間(さんじつかん)ほど無料開放(むりようかいほう)があつたらしいない。」「いつもは五(ご)の円(えん)やけど、短気(たんき)でカラスの行水(ぎやうすい)、いう人はフロより之(これ)と思(おも)うし。」「やっぱり仕事(しごと)が減(へ)つたというのが一(いち)番(ばん)やな、ワシはここでもう二三(さん)年(ねん)にな(な)るけど、昔(むかし)センターかてきる前は小指(こさし)割(わり)りで三時(さんじ)で二人分(ふたりぶん)やつたことがあるし。」

「話(はなし)はそこから……最近(さいきん)は大(だい)体(たい)人(じん)が堪(た)えたでし」「最近(さいきん)の仕事(しごと)の減(へ)りは、人(ひと)によつていろいろちがうけど、まず顔付(かおづ)けや、ステッカーもほとんどフタしてあるし、二階(にかい)の飯場(はんば)求人(こじん)も全部(ぜんぶ)却(かえ)却(かえ)や、五(ご)の円(えん)に二人(ふたり)だけいうのもある。仕事(しごと)はあるようでないし。」「島根(しまね)の災害(さいがい)復旧(ふくきゅう)工事(こうじ)があるけど、今は公営(こうえい)工事(こうじ)も小さいで、石工(いしこう)の手元(てもと)も減(へ)れたら、桑(くわ)などともあるし。」「ワシはまだ一(いち)ヶ月(かげつ)ちよつとや、常用(じょうよう)の失業(しつぎや)保険(ほけん)もろてるんやけど、なかなかええ条件(じょうけん)の仕事(しごと)見つからんし、センターから仕事(しごと)に行(い)くかなと思(おも)てるんや。」



「仕事(しごと)が減(へ)る一方(いっぽう)で条件(じょうけん)もだんだん悪(わる)なつてゐるし。」「もう足元(あしもと)見(み)ら小(こ)てるめし。」「センターにおつたらよう仕事(しごと)行(い)けへんかと声(こゑ)かけらゆる。長(なが)ゲツとか地下足袋(ぢかたびら)はいてる人(ひと)には全(ぜん)々(ぜん)声(こゑ)かけへんけど。」「そんなんはみんなケタ落ち(お)や知(し)つてる人(ひと)には声(こゑ)かけんめし。」「駅(えき)とか公園(こうえん)なんかでもさうやけど友人(ゆうじん)から行(い)くな言(い)われたし。」「ワシの友達(ともだち)で、酒飲(さけの)んでそんな調子(てうし)で飯場(はんば)にい(い)きよつた。」「富田林(とみだやし)やけど、満期(まんき)で帰(かえ)る時(とき)まで送(おく)つてく小(こ)て切符(きっぷ)まで買(か)うてく小(こ)ゆるわけや、そゆで電車(でんしゃ)の窓(まど)から御苦勞(ごくろう)さんというて耳(みみ)に同(どう)くゆるわけや、聞(き)けてみても耳(みみ)にはないめ、計(けい)算(さん)してみたら半価(はんか)はな。」

「二千円(ふたごひゃんえん)にしかならへんし。」「「よう聞く話(はなし)やなし。」「大日本(だいにっぽん)平(へい)和(わ)会(かい)のオジキが死(し)んでからよけいおかしたつたいうでし。」「「駅(えき)のはなんとかならんかし。」「「そら、西成(にしなり)の中(なか)だけでもよ。」「うまめき小(こ)んぬんから天王(てんおう)寺(じ)、梅田(うめだ)まではまず無理(むり)や。」「「まず仕事(しごと)も増(ふ)やすことや。」「七月(しちがつ)になつたら仕事(しごと)がふえるのは毎(まい)年(ねん)のことやからそゆまです台風(たいふう)が過ぎるのを待つようしんぼう。」「に辛抱(しんぼう)するしかないんかし。」「「日産(にっさん)使(し)う人も六千(ろっせん)から三千(さんせん)と半分(はんぶん)になつたらしい。」「「科学(かがく)万博(ばんぱく)の工事(こうじ)では山谷(さんや)君(きみ)へは何(なん)の影(かげ)もないんかし。」「「「遠(とほ)くへは関係(かんけい)ないしは暗(くら)いでし。」「「「国(くに)と村(むら)には事(こと)をせ、いっしかなないでし。」